

先端 IT 活用推進コンソーシアム
(AITC)

第 九 回 総 会

議 案 書

2018 年 10 月 1 日(月)

於 富士通(株)

目 次

第1号議案 第8期(2017年度)活動報告の件	
・ 活動実績.....	1-1
第2号議案 第8期(2017年度)収支報告の件	
・ 収支計算書.....	2-1
・ 貸借対照表・財産目録.....	2-2
・ 監査報告書.....	2-3
第3号議案 第9期(2018年度)活動計画承認の件	
・ 本会の活動・運営方針.....	3-1
・ 第9期(2018年度)の活動計画.....	3-2
第4号議案 第9期(2018年度)予算計画承認の件	
・ 予算計画.....	4-1
第5号議案 第9期(2018年度)理事/監事選任の件	
・ 役員構成.....	5-1
付属資料	
・ 第9期(2018年度)活動のご紹介.....	i-1
～部会および協働プロジェクトの活動計画～	

注:AITCにおける年度は下記の通りです。

第1期(2010年度):	2010年9月8日～2011年8月31日
第2期(2011年度):	2011年9月1日～2012年8月31日
第3期(2012年度):	2012年9月1日～2013年8月31日
第4期(2013年度):	2013年9月1日～2014年8月31日
第5期(2014年度):	2014年9月1日～2015年8月31日
第6期(2015年度):	2015年9月1日～2016年8月31日
第7期(2016年度):	2016年9月1日～2017年8月31日
⇒ 第8期(2017年度):	2017年9月1日～2018年8月31日
⇒ 第9期(2018年度):	2018年9月1日～2019年8月31日
第10期(2019年度):	2019年9月1日～2020年8月31日
第11期(2020年度):	2020年9月1日～2021年8月31日

第 1 号議案

第 8 期（2017 年度）活動報告の件

先端 IT 活用推進コンソーシアム

第8期の活動総括

設立8年目となる今期は、会と活動の一層の充実を図るため下記重点施策の実現に邁進した。

第8期の重点施策と活動評価:

- ① **新しい技術領域、特に企業がこれからの技術として注目する新しい技術への取り組みを強化**
 - 部会を中心にAITC全体で、IoT、AI(機械学習、深層学習、強化学習)、量子コンピュータ、ブロックチェーン、AR+VR+MR等、注目度の高い技術領域に積極的に取り組み、会員内外から高い期待と評価を獲得した
 - 会員限定の勉強会では、「TensorFlow」「ブロックチェーン」をテーマとして、少人数での演習を中心とする形態で実施し、個々人のスキルとノウハウの習得に効果をあげている。これにより、個人会員が増加した
- ② **情報と知見の発信を更に強化し、先端ITの普及促進で社会貢献**
 - 「気象庁XMLフォーマット策定への技術協力(XMLコンソーシアム)」から始まった「気象データの高度化および利活用推進」に対する長年の貢献に対し、2018年6月1日「気象記念日」に気象庁長官表彰を授与された
 - －気象データの利便性向上のため専門的な知見を継続的に提供
 - －気象データの活用方法について積極的に情報発信
 - 気象ビジネス推進コンソーシアム(WXBC)の会員として、人材育成WGの活動を主導し、「気象 x IoT 勉強会」を牽引するなど、AITCの情報、知見、経験をもって他団体の活動に貢献している
 - 学会の場で活動成果を発表し先端ITの活用について訴求するとともに、学会関係者から得た知見等を取り込むなどして活動充実に努めている
 - －ソフトウェアジャパン 2018「ITフォーラム」における協働プロジェクト「空気を読む家」活動発表
 - －DEIM2018(データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム)における「コンテキスト・コンピューティングにおける投稿の信頼性評価」研究発表
 - 前期からの課題であった資料公開の迅速化ならびに検索のしやすさについて改善に努めた
なお、検索のしやすさについては引き続き一層の改善に努めていきたい
- ③ **先端IT人材の活性化・多様化とネットワークの更なる強化**
 - 活動間の交流・連携が活発に行われた
 - ・協働プロジェクトでは全部会が協働して「空気を読む家」の新しいシナリオ作りやデモ開発を行い、部会間の連携に対する意識が高まった
 - ・開催5回目となった今期の「ガジェット祭り」は関心の高いスマートスピーカーに焦点を当てたことから、部会を超えてメンバーが協力し、市販品だけではなく自作のスマートスピーカーも紹介され、技術者集団たるAITCらしさが存分に発揮された
 - シニア技術者勉強会は「IoT」、AITC女子会は「機械学習」にフォーカスした活動を行うことで、会員企業と非会員の双方から新しい多様な参加者が増加し、情報交換とスキルの向上に役立っている
 - AITC女子会の目的の一つとして「活動の企画や運営に関与してもらうことで、後続IT女子のリーダー役となれるIT女子の育成を目指す」を掲げて3年前に活動を発足させたが、中核メンバーに企画や運営に対する自主性が見られるようになってきた
- ④ **会期末(2021年8月末日)に向け、AITC活動の集大成となる活動を計画&実行開始**
 - △ 部会、協働プロジェクトともに最終成果物を想定する計画に着手したところであり、本格的に取り組むのは来期からとなる

上記の通り、第8期は部会や協働プロジェクトに加え、オープンな活動(女子会やシニア技術者勉強会等)においても機械学習やIoT試作へ積極的に取り組むなど、旬の技術領域に関する情報提供や体験の場を提供し、AITC全体として着実な進展が見られた。部会や協働プロジェクトの活動へ会員企業からより多くの技術者、特に若手技術者に参加して欲しいという長年の課題に向けて、上記の重点施策①②をもって改善努力を重ねた結果、徐々にではあるが若手の新しいメンバーや多様なメンバーの参加が増え始めた。第9期においても重要な課題と位置付け、改善を目指して一層注力していく。この一年の会員各位のご協力、ご支援に改めて感謝いたします。

第8期活動実績

■会員数

2018年08月31日現在:総会員数88会員(法人&個人事業主会員:37、個人会員:42、学会会員:5、特別会員:4*)

2018年10月01日現在:総会員数83会員(法人&個人事業主会員:34、個人会員:40、学会会員:5、特別会員:4*)

(参考)

2017年08月31日現在:総会員数81会員(法人&個人事業主会員:38、個人会員:37、学会会員:2、特別会員:4*)

2017年10月18日現在:総会員数78会員(法人&個人事業主会員:36、個人会員:37、学会会員:1、特別会員:4*)

*特別会員:産業技術総合研究所、気象庁、消防研究センター、防災科学技術研究所

■運営関連の活動実績

1. 年次総会: 1回 2017年10月18日
2. 理事会: 開催2回、ML審議3回
3. 運営委員会: 開催12回、SNS審議29回

活動内容: (1)入退会管理

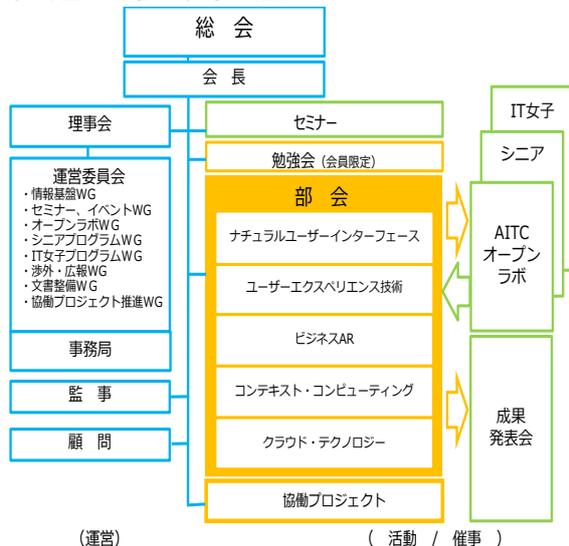
(2)収支管理

(3)セミナー・イベント企画・運営: 総会、成果発表会、AITCセミナー、AITCオープンラボ

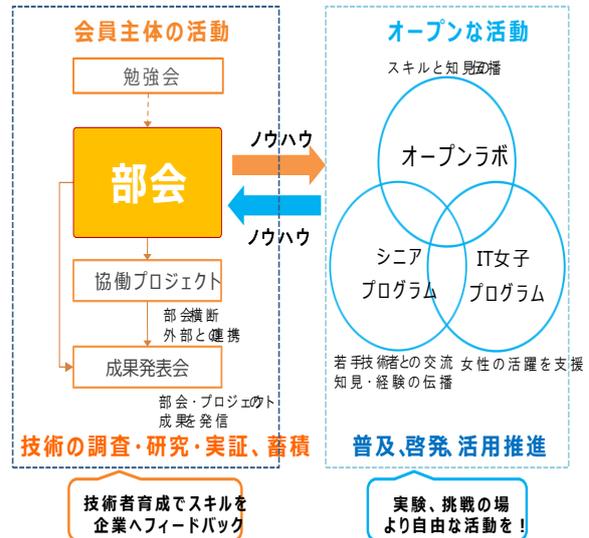
(4)活動支援: 会員向け活動(部会、協働プロジェクト、会員限定勉強会)

- オープンな活動(オープンラボ、シニアプログラム、IT 女子プログラム)
- (5)情報基盤:ドメイン&サーバー管理
 - (6)渉外・広報:AITC パンフレット更新、AITC ニュースレター発行
 - (7)外部組織・団体との連携活動企画・運営:情報処理学会
データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム
気象庁、気象ビジネス推進コンソーシアム(WXBC)
日本ネットワークセキュリティ協会(JNSA)
- (8)会員アンケートの実施、サマリー公開:第8期会員アンケート

■会員主体の活動(部会、協働プロジェクト、勉強会)活動実績
(参考図1: 第8期 体制図)



(参考図2: 活動の種類と関係)



1.部会

(1)クラウド・テクノロジー活用部会(勉強会から発展し2011年5月に発足)

開催実績: 月例部会 11回、参加者 77名

活動内容:

- 1)情報交換(イベントへの参加、ニュース、その他)
- 2)参加者が講師となり、内部勉強会を開催(担当、敬称略)
強化学習(戸田)
遺伝的アルゴリズム(松井)
量子コンピュータと暗号化アルゴリズムについて(宮地)
仮想通貨の話(宮地)
車のIoTの話(宮地)
デジタル社会に合わせた本人確認方法の必要性について(宮地)
量子アニーリングとは(宮地)
セキュリティ概要「攻撃者の動機編」(荒本)
- 3)参加者が講師となり、『仕事ではじめる機械学習』を輪読(担当、敬称略)
第1章:機械学習プロジェクトのはじめ方(荒本)
第2章:機械学習で何が出来る?(上村)
第3章:学習結果を評価しよう(箕島)
第4章:システムに機械学習を組み込む(宮地)
第5章:学習のためのリソースを収集しよう(宮地)
第6章:効果検証(大越)
第7章:映画の推薦システムをつくる(中嶋)
第8章:Kickstarterの分析、機械学習を使わないという選択肢(北川)
- 4)部会内の成果をオープンラボで実施
2018年2月24日「OpenAIGymを使った強化学習と遺伝的アルゴリズムのハンズオン」
- 5)気象庁XMLの取得APIの運営を継続
運用期間を2021年8月まで延長
- 6)気象データを使ったクラウド上での巨大データ操作
主に巨大なCSVデータを操作する時の注意点やノウハウについて議論
- 7)外部イベント発表:情報処理学会 ソフトウェアジャパン 2018「ITフォーラムセッション」

(2)コンテキスト・コンピューティング研究部会(2010年10月発足)

開催実績: 月例部会 11回、出席者 52名

活動内容:

1)理論と実践

- ・集約に際して、各自の志向・特性に合わせた計算をするための方法論調査
- ・投稿の信頼性、確信度、納得度に関する先行研究・事例の調査・分析
 - 「ヒューマンコンピューテーション」における品質管理
 - クラウドソーシングでの各自の発言の信頼性評価
 - 「知の科学 社会知デザイン」(西田豊明、オーム社)
 - 「SNS における協調的な信頼推定モデル」
 - 大和市における「住民の納得度調査」事例
 - 「記憶に基づく自己評定の信頼度変動と評定値の関係」
 - 「情報コンテンツの信頼性とその評価技術」
 - 「信頼の構造」(山岸俊男、東京大学出版会)
 - 信頼の多様性の整理、社会的不確実性との関係
 - 安心(低信頼型)社会と信頼(高信頼型)社会
 - 社会的知性とは相手の行動から精確に信頼性を予測する能力
 - ファクトチェックイニシアチブの活動事例
 - Facebook のフェイクニュース対策事例 等々
- ・「信頼と信頼性」に関する議論
 - 投稿者の信頼性
 - 人間関係、社会的地位、人格、意図、評判
 - 投稿の信頼性
 - 自然科学的評価、論理性、反証可能性、蓋然性(主観)、秩序(自然、道徳)
 - 社会科学的方法論と信頼性
 - 「社会科学の考え方」(野村康、名古屋大学出版会)
 - 「ディープラーニングを使った驚異のムービー編集技術「Deep Video」では人の表情や頭・目の動き、まばたきまで別の人に移植可能」
 - 西日本の豪雨での避難行動傾向
 - 認知/正常性バイアスと行政への過信や個人的経験・伝承にもとづく避難行動
- ・DEIM2018 投稿論文の作成
 - 「コンテキスト・コンピューティングにおける投稿の信頼性評価」
 - Project LA における現象から気づいた課題
 - 投稿内容の論理性に着目する
 - 論理構造がしっかりしているものは説得力が高く、信頼性も高い
 - 論理性と信頼性の関係の再確認(必ずしも論理的に判断するわけではない)
 - 説得の技法としての行動変容アプローチ
- ・人工知能学会「推論チャレンジに向けたスキーマ検討」
 - 検討会への参加報告と考察

2)応用

- ・空気を読む家
 - 忘れ物をしないリビングでの、コンテキスト・コンピューティング(ツールミンモデル)の適用
 - 学習の方法、常識と個別の識別、忘れ物のパターン(因果)分析、「要するにこういうこと」情報の集約
 - Xperia Hello などの関連プロダクト事例の共有
 - キッチンにおける課題に関して
 - シャープの AIoT 冷蔵庫の事例

活動成果: 理事会認定成果物として公開

- DEIM2018 (第 10 回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム) 投稿論文
 - 「コンテキスト・コンピューティングにおける投稿の信頼性評価」
- 外部イベント発表: 情報処理学会 ソフトウェアジャパン 2018「IT フォーラムセッション」
 - DEIM2018(第 10 回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム)

(3)ビジネス AR 研究部会(2011 年 7 月発足)

開催実績: 月例会 11 回 出席者 50 名

活動内容:

- 1)「空間 OS」の開発ならびにソフトウェアジャパン 2018「IT フォーラムセッション」での発表
- 2)「AJ(Automated Judgement)と AH(Augmented Human)」について議論
 - 今後の AR の使われ方として「機械が意思決定(AJ)」と「機械はサポート、意思決定は人間(AH)」といった二分化を予想
 - これまでの議論「空間の AR」は前者を想定していたが、後者 AH の場合の AR の活用方法、ユースケース、課題や手法について議論
- 3)「なぜ、3D デジタル空間がこれからの IT のインフラになるのか」について議論
 - BIM の勉強を通じて、3D デジタル空間(情報・データ)が今後デジタル及び IT インフラにどのようなようになっていくかを議論
- 4)AR 等の最新アプリケーション・ガジェットを体験
 - ・Oculus Go
 - ・VTuber

- ・バーチャルキャスト
- ・Looking Glass
- 5)AR 関連文献のレビュー及び議論
 - ・オライリー『Augmented Human』
 - ・マイナビブックス『AR の教科書』
- 6)屋外利用 AR のプロトタイプ開発
 - 小池誠氏(きゅうり自動選果機の開発者)と合同で Microsoft HoloLens を用いて農作業で AR を活用できないかを実地検証した
- 7)AR 関連事例の共有
 - 83 件の AR 関連事例を収集し、SNS や月例会で意見交換

(4) ユーザーエクスペリエンス技術部会(2011 年 12 月発足)

開催実績: 月例会 3 回(ナチュラルユーザーインターフェース活用部会と合同開催)+Web 会議 19 回、参加者: 58 人
活動内容:

- 1)「マンガ駆動開発ではじめる UX デザイン(仮)」執筆を中心に活動
- 2) 書籍『ユーザーエクスペリエンスのためのストーリーテリング』を輪読し、マンガ駆動開発プロセスをブラッシュアップ
- 3) 協働プロジェクト『空気を読む家』の4つめのシナリオである「空気を読む家のリビング」における UX デザインにおいて、マンガ駆動開発プロセスを実践
- 4) 外部イベント発表: 情報処理学会 ソフトウエアジャパン 2018「IT フォーラムセッション」

(5) ナチュラルユーザーインターフェース活用部会(勉強会から発展し 2011 年 12 月発足)

開催実績: 月例会 3 回(ユーザーエクスペリエンス技術部会と合同開催)+Web 会議 19 回、参加者: 58 人
活動内容:

- 1)デジタルガジェット祭りの開催(2018 年 6 月度オープンラボ)
 - スマートスピーカーをテーマに開催。市販スマートスピーカーの紹介だけでなく、独自に開発したスマートスピーカーアプリケーションや自作のスマートスピーカー、会員企業の飛び入り発表など、AITC のデジタルガジェット祭りにらしいプレゼンテーションが計8件行った。また、発表されたスマートスピーカーを実際に触ってみるタッチ&トライでは、開発者と参加者との間でスマートスピーカーの可能性について活発な議論が行われた
- 2)外部イベント発表: 情報処理学会 ソフトウエアジャパン 2018 IT フォーラムセッション

2.協働プロジェクト「空気を読む家」(協働プロジェクト第 2 弾として 2014 年 12 月検討開始)

- ・全部会による合同部会を2回開催し、集中検討を実施
- 2017 年 12 月 1 日:『空気を読む家のリビング』の実現方法を議論
- 2018 年 6 月 29 日: 新シナリオの検討。テーマを『空気を読む家のキッチン』とし課題や解決策を議論

・活動内容

- 2017 年 12 月 1 日: 合同部会において、「空気を読む家のリビング」について実現方法を中心に議論
- 2018 年 2 月 2 日: 情報処理学会ソフトウエアジャパン 2018 IT フォーラムセッションで活動の成果を発表
- 2018 年 5 月 25 日: AITC オープンラボとして再演
- 2018 年 6 月 29 日: 合同部会で新シナリオについてアイデア出しを実施
 - 『空気を読む家のキッチン』をテーマとすることで合意
 - マンガ駆動開発プロセスに従って、UX デザインを実施
 - 取材: インタビュー形式でキッチンにまつわるエピソードを洗い出し
 - 分析: エピソードから洗い出された課題を分類/整理
 - 解決すべき課題を以下の3つとした
 - 課題 A) 食材賞味期限切れ問題
 - 課題 B) 食器/調理器具片づけ問題
 - 課題 C) 買い物重複/買い忘れ問題
- これらの課題に対して、継続して議論し、課題解決の方策を検討する

3.勉強会(会員限定)

(1)TensorFlow 勉強会(2016 年 6 月発足 2017 年 2 月より新メンバーを中心に「シリーズ2」を実施)

活動実績: F2F 勉強会 5 回(但し、シリーズ2として計 10 回)、登録メンバー37 名

活動内容: TensorFlow を中心とするディープラーニング分野について、メンバーが自発的に学びつつ、理解が難しい点や困ったことをお互いに持ち寄って相談し、協力しながら解決する「場」を、定期的に設ける。

- ・毎月 2 時間程度のミーティングを実施し、以下の活動を行う。
 - －学会参加や新技術発表についての情報交換
 - －関心のあるテーマ別に、ハンズオンなどのグループ活動
 - －当日に理解できたこと、新たな課題になったこと等のふりかえり

活動成果: 成果物の作成

- 社内外において後続するエンジニアたちにディープラーニング技術のノウハウを広めていくためのドキュメントを作成
- ・作成した成果ドキュメントを成果報告会で紹介
 - －2018 年 1 月 27 日(土)オープンラボ「TensorFlow シリーズ2 成果報告会」
- ・新規会員(個人会員)の入会に貢献

(2)ブロックチェーン勉強会(2017年7月発足)

- ・ブロックチェーン技術のハンズオンを通して、技術習得を行う勉強会
- ・新規会員(個人会員)の入会に貢献

活動実績:F2F勉強会7回※(第7期分を含めて計8回)、参加者:99名(第7期分を含めて114名)

第1回 Ethereum(第7期開催)、第2回 Hyperledger Fabric、第3回 Mijin
第4回 Blockchain as a Service(Microsoft Azure)、第5回 Hyperledger IROHA

更なる理解を深めたいという要望に応え、ブロックチェーン勉強会“2ndクール”を開始
1つのテーマを1)構築、2)利用、3)活用の3回に分けて、ハンズオンを中心に実施
第6回 Ethereum 構築編、第7回 Ethereum 利用編、第8回 Ethereum 活用編

4.成果発表会・AITC技術セミナー(会員限定)参加者:87名(会員62名、非会員25名)

2017年09月16日(金)第7期(2016年度)活動成果発表会参加者56名(会員47名、非会員9名)

2018年08月03日(金)AITC技術セミナー「気象データを”R”で可視化してみよう！」

(気象ビジネス推進コンソーシアム(WXBC)との共催)参加者31名(AITC15名、WXBC16名)

参考)第8期(2017年度)活動成果発表会:2018年10月1日(月)第9回総会第1部として実施

■オープン活動(オープンラボ、シニア技術者勉強会、女子会)活動実績

1. AITCオープンラボ:開催5回、参加者145名(会員108名、非会員34名)

- ・2017年11月11日 オープン活動発表会「はじめてのデータ分析&IoT試作へのチャレンジ」39名(29名、10名)
- ・2018年01月27日 Tensorflow勉強会シリーズ2「成果報告会」23名(18名、5名)
- ・2018年02月24日 「OpenAIGymを使った強化学習と遺伝的アルゴリズムのハンズオン」32名(22名、10名)
- ・2018年05月24日 「先端ITテコ盛り!『空気を読む家』最新状況報告」22名(16名、6名)
- ・2018年06月28日 「第5回デジタルガジェット祭り!スマートスピーカー特集」29名(23名、3名)

2. シニア技術者プログラム(シニア技術者勉強会、2015年3月発足)

活動実績:月次開催11回、参加者:219名(会員180名、非会員39名)

活動内容:「一からはじめるIoT勉強会_第2周」(第7期11月から開始)&「女子会との交流会」

試作計2回(第8期9月~10月)+発表会(第8期11月)

試作テーマ:魔法のランタン

IoTで快適な睡眠をサポート

~いつも癒してくれてありがとう~ペットのお世話を自動化

観葉植物の気持ち

「一からはじめるIoT勉強会_第3周」(第8期1月から開始)&「女子会との交流会」

基礎勉強+アイデアソン+試作計8回

試作中のテーマ:Gotta-ni(スマートダイバーシティ)、IKARI、OFURO、ホームズ

活動成果:2017年11月11日オープン活動発表会「はじめてのデータ分析&IoT試作へのチャレンジ」での発表、資料公開

3. IT女子プログラム(通称:AITC女子会、2015年5月発足)

活動実績:月次開催11回、参加者:116名(会員76名、非会員40名)

活動内容:「データ分析勉強会」(第7期4月から実施)&「シニア技術者勉強会との交流会」計2回(第8期開催分)

データ分析テーマ:酒粕と美肌のデータ分析

ペット、飼ってますか?

データで見つけた~日本人も知らない日本~Japan Tourism Data Analytics

ウマ天気

「機械学習勉強会」(第8期1月より開始)&「シニア技術者勉強会との交流会」計8回

実装テーマ:〇〇さんの機嫌

議事録

活動成果:2017年11月11日オープン活動発表会「はじめてのデータ分析&IoT試作へのチャレンジ」での発表、資料公開

■公開資料

【第八回総会】2017/10/18 先端IT活用推進コンソーシアム(AITC)第八回総会

・第八回総会議案書: http://aitc.jp/consortium/data/statement_20171018.pdf

・総会記念講演1:「スマートエスイー:スマートシステム&サービス技術の産学連携イノベーション人材育成」

http://aitc.jp/events/20171018-Soukai/講演1_20171018_AITC総会スマートエスイー.pdf

・総会記念講演2:「気象データ活用サービスの更なる発展に向けて」

http://aitc.jp/events/20171018-Soukai/講演2_20171018_AITC総会気象庁講演資料.pdf

【会員アンケート(会員限定公開)】

・AITC第7期(2016年度)会員アンケート: http://aitc.jp/consortium/data/questionnaire_2016.pdf

【AITC 第 7 期(2016 年度)活動成果発表会】

- ・クラウド・テクノロジー活用部会:「活動報告」、「音の機械学習:話者識別」
http://aitc.jp/events/20170919-Seika/20170919_活動報告_1_Cloud1_活動内容.pdf
http://aitc.jp/events/20170919-Seika/20170919_活動報告_1_Cloud2_活動成果.pdf
- ・コンテキスト・コンピューティング研究部会:「社会知のつくり方」
http://aitc.jp/events/20170919-Seika/20170919_活動報告_2_CC_K2.pdf
- ・ビジネス AR 研究部会:「成果発表」、「『AR 百連発』から見る今後のトレンド」
http://aitc.jp/events/20170919-Seika/20170919_活動報告_3_BizAR_部会.pdf
http://aitc.jp/events/20170919-Seika/20170919_活動報告_3_BizAR_部会_100_連発.pdf
- ・ナチュラルユーザーインターフェース活用部会:「デジタルガジェット祭りを振り返る」
http://aitc.jp/events/20170919-Seika/20170919_活動報告_4_NUI.pdf
- ・ユーザーエクスペリエンス技術部会:「成果発表」
http://aitc.jp/events/20170919-Seika/20170919_活動報告_5_UX_技術部会.pdf
- ・協働プロジェクト『空気を読む家』:「活動状況報告」
http://aitc.jp/events/20170919-Seika/20170919_活動報告_6_協働プロジェクト.pdf
- ・AITC オープン活動(オープンラボ、女子会、シニア技術者勉強会):
http://aitc.jp/events/20170919-Seika/20170919_活動報告_7_オープンな活動ご紹介.pdf
- ・招待講演:「ディープラーニングを用いたキュウリ選果機の開発」
http://aitc.jp/events/20170919-Seika/20170919_招待講演_ディープラーニングを用いた%20キュウリ選果機の開発_AITC.pdf

【第 8 期理事会認定成果物】

DEIM2018(第 10 回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム)投稿論文

「コンテキスト・コンピューティングにおける投稿の信頼性評価」

http://aitc.jp/pubs/cc/20180328_CC_deim2018.pdf

【TensorFlow 勉強会(会員限定)】

2018/01/27 2018 年 1 月期 AITC セミナー & オープンラボ 「TensorFlow 勉強会シリーズ2成果報告会」

- ・TensorFlow の計算グラフの理解
<https://www.slideshare.net/aitc/20180127-tensorflow-87516044>
- ・Keras/TensorFlow によるディープラーニング事始め
https://www.slideshare.net/aitc_jp/20180127-kerastensorflow
- ・TensorBoard による学習の可視化
https://www.slideshare.net/aitc_jp/20180127-tensorboard
- ・TensorFlow で RNN-LSTM を実装してみた
<https://www.slideshare.net/aitc/20180127-tensorflowrnstm>

【ブロックチェーン勉強会(会員限定)】

・全回分

http://sns.aitc.jp/?m=pc&a=page_c_home&target_c_commu_id=24

【AITC 技術セミナー(会員限定)】

2018/08/03 「気象データを”R”で可視化してみよう！」(WXBC との共催)

- ・オープニング 資料
http://cloud.aitc.jp/member2/20180803_R/mp4/5.mp4
http://cloud.aitc.jp/member2/20180803_R/mp4/5.mp4
- ・気象データの紹介 資料(動画あり)
http://cloud.aitc.jp/member2/20180803_R/20180803_2.pdf
- ・気象データと組み合わせるデータの紹介 I&II 資料(動画あり)
http://cloud.aitc.jp/member2/20180803_R/20180803_3.pdf
- ・クロージング 資料
http://cloud.aitc.jp/member2/20180803_R/20180803_4.pdf

【AITC オープンラボ】

2017/11/11「AITC オープン活動発表会～はじめてのデータ分析 & IoT 試作へのチャレンジ～」

参照: AITC シニア技術者勉強会および AITC 女子会

2018/01/27 2018 年 1 月期 AITC セミナー & オープンラボ 「TensorFlow 勉強会シリーズ2成果報告会」

参照: TensorFlow 勉強会(会員限定)

2018/02/24 「OpenAIGym の使った強化学習と遺伝的アルゴリズムのハンズオン」

http://cloud.aitc.jp/20180224_OpenLab/

2018/05/25 2018 年 5 月期 AITC 技術セミナー & オープンラボ「先端 IT テンコ盛り!『空気を読む家』最新状況報告」

- ・協働プロジェクト『空気を読む家』
https://www.slideshare.net/aitc_jp/aitc-201851
- ・マンガ駆動開発によるデザインプロセス
https://www.slideshare.net/aitc_jp/aitc-201852

- ・『空気を読む家』におけるオブジェクト認識技術 https://www.slideshare.net/aitc_jp/aitc-201853
 - ・空間 OS の設計コンセプトと先端 IT https://www.slideshare.net/aitc_jp/aitc-201854
 - ・空気を読むためのコンテキスト・コンピューティング https://www.slideshare.net/aitc_jp/aitc-201855
- 2018/06/28 2018 年 6 月期 AITC セミナー&オープンラボ
「第五回デジタルガジェット祭り！ スマートスピーカー特集～市販&自作のスマートスピーカー競演～」
- ・オープニング:スマートスピーカー概観 https://www.slideshare.net/aitc_jp/5-1-108690883
 - ・製品系
 - LINE Clover 開封の儀とデモ Wave https://www.slideshare.net/aitc_jp/5-2-108691016
 - Google Home を使ってノンプログラミングではじめるスマートハウスライフ https://www.slideshare.net/aitc_jp/5-3-108691090
 - 〇〇と Amazon Echo は使いよう https://www.slideshare.net/aitc_jp/5-4-108691162
 - ・自作系
 - AIY Voice Kit でスマートスピーカー https://www.slideshare.net/aitc_jp/5-5-108691242
 - 音声による PC 操作に挑戦 https://www.slideshare.net/aitc_jp/5-6-108691385
 - 魔法のランタン https://www.slideshare.net/aitc_jp/5-7-108691453
 - ・その他
 - AI 環境センサー(スマートスピーカーもどき) https://www.slideshare.net/aitc_jp/5-8-108691527

【AITC シニア技術者勉強会】

2017 年 11 月 11 日(土)AITC オープン活動発表会「はじめてのデータ分析 & IoT 試作へのチャレンジ」

「IoT 試作へのチャレンジ」

- ・魔法のランタン http://aitc.jp/events/20171111-Women_Senior/20171111_5_senior_lanthanum.pdf
 - ・IoT で快適な睡眠をサポート http://aitc.jp/events/20171111-Women_Senior/20171111_6_senior_sleep.pdf
 - ・～いつも癒やしてくれてありがとう～ペットのお世話を自動化 http://aitc.jp/events/20171111-Women_Senior/20171111_7_senior_pet.pdf
 - ・観葉植物の気持ち http://aitc.jp/events/20171111-Women_Senior/20171111_8_senior_plant.pdf
- 2018 年 01 月 20 日「第 1 回～Arduino 入門編」 http://cloud.aitc.jp/20180120_senior_arduino1/
 2018 年 02 月 17 日「第 2 回～Arduino 応用編」 http://cloud.aitc.jp/20180217_senior_arduino2/
 2018 年 03 月 17 日「第 3 回～Raspberry Pi 入門編」 <https://qiita.com/mininobu/items/1ba0223af84be153b850>
 2018 年 04 月 21 日「第 4 回～Raspberry Pi 応用編」 http://cloud.aitc.jp/20180421_senior_raspi2/

【AITC 女子会】

2017 年 11 月 11 日(土)AITC オープン活動発表会「はじめてのデータ分析 & IoT 試作へのチャレンジ」

「はじめてのデータ分析」

- ・酒粕と美肌のデータ分析 http://aitc.jp/events/20171111-Women_Senior/20171111_1_woman_skin.pdf
- ・ペット、飼ってますか？ http://aitc.jp/events/20171111-Women_Senior/20171111_2_woman_pet.pdf
- ・データで見つけた ～日本人も知らない日本～ Japan Tourism Data Analytics http://aitc.jp/events/20171111-Women_Senior/20171111_3_woman_travel.pdf
- ・ウマ天気 http://aitc.jp/events/20171111-Women_Senior/20171111_4_woman_animal.pdf

第 2 号議案

第 8 期（2017 年度）収支報告の件

先端 IT 活用推進コンソーシアム

第 8 期(2017 年度)収支計算書

2017 年 9 月 1 日 から 2018 年 8 月 31 日 まで (単位:円)

	第 8 期 予算	第 8 期 実績	差額	備考: 予算策定時 vs 実績
1. 収入の部				
前年度繰越	7,137,508	7,137,508	0	
年会費	3,973,000	3,969,000	4,000	法人&個人事業主(10万円) 36 会員 vs 34 会員 (後半期 5 万円) 0 会員 vs 4 会員 個人会員(1 万円) 37 会員 vs 33 会員 (後半期 5 千円) 0 会員 vs 6 会員 学術会員(3 千円) 1 会員 vs 2 会員 (後半期 1.5 千円) 0 会員 vs 2 会員
懇親会等参加費	350,000	89,000	261,000	懇親会参加費: (2,000 円) 0 名 vs 2 名 (1,500 円) 100 名 vs 34 名 (1,000 円) 200 名 vs 34 名
雑収入	80	81	△1	利息
収入の部合計	11,460,588	11,195,589	264,999	
2. 支出の部				備考: 用途別費用(注: 部会名を略記)
総会開催費	200,000	136,919	63,081	総会懇親会費用: 105,932 円 総会表彰賞状&額縁代: 30,987 円
活動支援金 (部会、勉強会)	(247,923) 600,000	847,923	0	レンタル・サーバー&商用 Web サービス: 287,244 円 成果発表会(講師謝金、懇親会補てん): 197,000 円 他団体参加費&交通費補助: 170,542 円 懇親会補てん(講師分): 73,678 円 貸し会議室料: 67,752 円 パンフレット印刷費等: 43,000 円、備品代: 8,707 円 総額: 847,923 円(超過分 247,923 円は予備費から充当※) ※参照: 特記事項
協働プロジェクト支援金	300,000	82,188	217,812	忘年会費補てん分: 44,172 円 Backlog 年間使用料: 25,920 円 仮想専用サーバー費: 12,096 円
イベント参加費	100,000	105,384	△5,384	ソフトウェアジャパン 2018 サポーター費 54,000 円 気象ビジネスフォーラム ブース出展費 30,000 円 ポスター作成費 21,384 円
技術セミナー、オープンラボ開催費	400,000	75,432	324,568	デモ機器購入費: 43,479 円 懇親会費(補てん分、講師分): 31,953 円
シニア技術者勉強会&女子会 活動支援金(特別支援金)	250,000	36,174	213,826	シニア勉強会&女子会交流会補てん分 32,632 円 書籍代 2,678 円、備品: 864 円
事務局経費	2,592,000	2,592,000	0	情報配信&サイト管理費: 1,296,000 円 上記以外の全事務局作業費: 1,296,000 円
通信費	5,000	8,870	△3,870	宅配&郵送料: 5,950 円、レターパック等: 2,920 円
事務消耗品費	20,000	10,957	9,043	プリンター用備品費 8,280 円、事務用品費 2,677 円
雑費	20,000	13,400	6,600	名刺作成費: 6,350 円、弔電: 3,650 円 振込手数料: 3,400 円
予備費	(△247,923) 6,973,588		6,725,665	予算枠の(△247,923)活動支援金辺の充当分※ ※参照: 特記事項
支出の部合計	11,460,588	3,909,247	7,551,341	
次期繰越収支差額		7,286,342	-7,286,342	
合計	11,460,588	11,195,589	264,999	

特記事項: 第八回総会議案書 第 4 号議案「第 8 期(2017 年度)予算計画承認の件」

1. 次の項目に不足が生じた場合には理事会承認を得て予備費を充当する。

活動支援金(部会、勉強会)、協働プロジェクト支援金、技術セミナー&オープンラボ開催費、シニア技術者勉強会&女子会活動支援金

貸借対照表

2018年8月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
【資産の部】			
現金預金	7,689,342		
流動資産合計		7,689,342	
資産合計			7,689,342
【負債の部】			
前受金	403,000		
流動負債合計		403,000	
負債合計			403,000
【正味財産の部】			
正味財産			7,286,342
(うち当期正味財産増加額)			148,834
負債及び正味財産合計			7,689,342

財産目録

2018年8月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
【資産の部】			
現金預金	7,689,342		
普通預金	7,689,342		
横浜銀行	7,689,342		
流動資産合計		7,689,342	
資産合計			7,689,342
【負債の部】			
流動負債			
前受金	403,000		
流動負債合計		403,000	
負債合計			403,000
正味財産			7,286,342
負債及び正味財産合計			7,689,342

第8期(2017年度) 監査報告書

監査報告書

2018年9月18日

先端IT活用推進コンソーシアム
会長 鶴保 征城 殿

監事 水谷 学 

私 監事は、先端IT活用推進コンソーシアム会員規約第31条に基き、本会の会期と定めた2017年9月1日から2018年8月31日における会計および業務について監査を行い、次のように報告します。

記

1. 監査の方法と概要

- (1) 会計監査のため、帳簿ならびに関係書類の閲覧をし、貸借対照表、収支計算書、財産目録について検討し、必要と思われる監査手続きを用いて調査した。
- (2) 業務監査のため関係書類の閲覧をし、業務執行について検討し、必要と思われる監査手続きを用いて調査した。

2. 監査意見

- (1) 貸借対照表、収支計算書、財産目録は会計帳簿の記載金額と一致し、法令および規約に従って、先端IT活用推進コンソーシアムの財産および収支を正しく示していると認める。
- (2) 事業報告書の内容および業務執行に関して、不正行為または法令もしくは規約に違反する事実はないことを認める。

以上

第 3 号議案

第 9 期(2018 年度)活動計画承認の件

先端 IT 活用推進コンソーシアム

本会の活動・運営方針

1) 活動理念

本会は、先端情報技術（以下、先端 IT と表す）にトライできる場、ワクワクできる場を提供し、先端 IT に明るい技術者の育成と先端 IT の活用を推進することで、IT 業界および IT が支える産業界と日本社会の発展に貢献することを目指す。

2) 活動の目的

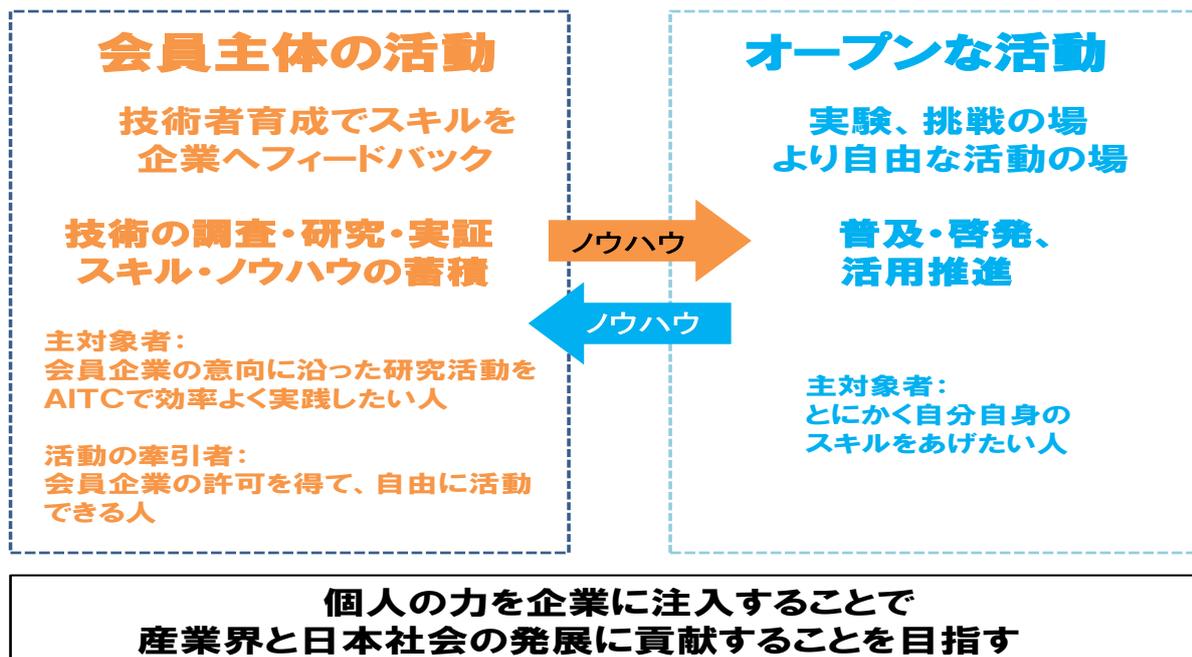
本会は、技術者の自発的な活動を支援し、個々の技術者が先端 IT を身につけ、今後の企業活動および社会の発展に活かすため、次のような活動の「場」を提供することを活動の目的とする。

- ・先端 IT に関する情報をいち早く技術者に提供し、試用してみる場
- ・技術者が切磋琢磨しあって、先端 IT に関する情報と知見を習得し、共有する場
- ・失敗しても何度でもトライでき、先端 IT にワクワクできる場
- ・先端 IT の可能性を検証し、活用を推進する場
- ・得られた先端 IT の知見を発信していく場
- ・先端 IT に関する企業間交流の場

3) 活動方針

- ・一社ではできない活動、競合関係を越えた活動
- ・特定企業や団体からの独立性・中立性
- ・外部組織・団体との協業
- ・人的ネットワークの構築
- ・知見の発信・活用推進による社会貢献

4) 活動の体制



5) 活動の成果

- ① 部会や協働プロジェクトの成果として、以下を想定する。
下記は、理事会承認をもって認定成果物として公開される。
 - ・試用・検討報告書
 - ・実証実験報告書
 - ・事例集、ノウハウ集、活用提案あるいは提言書
 - ・プロトタイプシステムの設計書、ソースコード、環境構築手順書など
- ② 下記は活動の成果として、都度、速やかに公開する。
 - ・成果発表会の発表資料
 - ・AITC 技術セミナー、AITC オープンラボ、AITC 女子会、シニア技術者勉強会の講演/発表資料

6) 会員制度

会員種別	対象者	議決権	活動参加 注1	運営参加 注2	年会費 注4
正会員	法人 個人事業主	○ ○	○ ○	○ ○	10万円 10万円
準会員	個人会員 学会会員	X X	(要理事会承認) ○ ○	X X	1万円 3千円
特別会員	選任	X	(要理事会承認) ○	○ 注3	無料

注1：活動参加とは、下記全てに参加できることを指す

会員主体の活動（部会、協働プロジェクト、AITC技術セミナー、会員限定の勉強会）
& オープンな活動（オープンラボ、AITC女子会、AITCシニア技術者勉強会）

注2：運営参加とは、理事、運営委員として本会の運営に携わること指す

注3：特別会員は理事会の要請を受け、運営に参加することができる

注4：新規入会が後半期（3月～8月）の場合、半額をもって年会費とする

2. 第9期(2018年度)の活動計画

1) 第9期の重点施策

2010年9月に設立した本会活動も9期目となり、2021年8月の活動終了まで残り3期となる。このことを念頭に、今期は3年後の活動集大成に向け、この基盤となる活動の一層の充実に努めるため、今期の重点施策を定める。なお、下記以外にも有効な施策があれば、適宜、実施していく。

① 新しい技術領域、特に企業がこれからの技術として注目する新しい技術への取り組みを強化

本会では、これまでもIoT、機械学習/深層学習/強化学習など注目度の高い技術にいち早く取り組み、会の内外から高く評価されてきた。今期もこの取り組みを堅持し、企業がこれからの技術として特に注目する新しい技術に積極的に取り組み、その中で何が使えるのか、何が残るのか、新しい技術領域を学び、調査・研究・検証するための活動に注力する。このため、現在の部会が対象としている技術領域に限定せず、AITCでまだ取り組んでいない新しい技術領域にもチャレンジし、会員企業へのスキルとノウハウのフィードバックを一層強化する。

- ・企画者と知見を持つ人の連携を密に行い、知見を有する外部講師によるセミナーを開催、知見者との交流を図る
- ・勉強会を立ち上げ、参加者が共に学び、助け合いながら疑問を解くことで、その分野のスキル・ノウハウを有する技術者、とりわけ後続の技術者達に技術を広めていけるリーダー的技術者の育成に励む
- ・協働プロジェクトに新しい技術を適用し、検証するなど、試験的な取り組みを行い、得られたスキルと知見を会員内外に発信する

② 情報と知見の発信を更に強化し、先端ITの普及促進で社会貢献

設立以来、先端ITへの取り組みと調査・研究の成果を広く世に公開することにより、先端ITの普及を促進し、社会に寄与することを目指してきた。特に、この数年に亘る取り組みと情報発信の強化により本会の知名度は格段に向上し、注目度が高まった。今期も引き続き、有用な情報や知見を発信することで、技術者の裾野を拡大しつつ、実証実験等を通じて先端ITの活用例を提案し、更なる社会貢献を目指す。

- ・活動の成果をタイムリーに発信
部会に蓄積されたスキル・ノウハウや研究成果を、「AITCオープンラボ」や「成果発表会」で纏めて発信することで、技術者の裾野の拡大を図り、先端IT活用推進の足掛かりとする
- ・情報の速やかな公開で、活動を更にオープン化
セミナーやオープンラボ、成果発表会等の資料を、速やかに、かつ、検索し易い形での公開を徹底し、鮮度良くリアルタイム性の高い情報を外部発信し、先端ITの活用推進に寄与する。資料の公開には、引き続き、外部サービスも併用し、より多くの利用者からフィードバックを受けられるようにする
- ・外部組織・団体との連携活動において、本会の有する情報や知見を提供し活動に寄与することで、先端ITの普及促進と社会への貢献に一層努める

③ 先端IT人材の活性化・多様化とネットワークの更なる強化

コンソーシアム活動に参加するメリットの一つに、企業の枠を超えた技術と人の交流が挙げられる。

設立当初より、本会では、同じテーマに関心を持つ技術者同士の交流は部会で、更に、部会間の連携活動である協働

プロジェクトにおいて単一の部会にはない技術と人材の交流が図れるよう努めてきた。これに加え、2014年からは新たに AITC オープンラボが、更に 2015 年からはシニア技術者向け、IT 女子向けの活動が加わり、IoT や AI など、新しい技術領域への取り組みにより会の知名度も Up し、多様な人材が参集するようになった。今期はそれぞれの活動を更に充実させることで、会員内外を問わず多様な先端 IT 人材間の密なネットワークを確立し、会として、会員として、個人として、更なるパワーアップを目指していく。

- ・AITC オープンラボを軸に、若手技術者の育成を行う
先端 IT の活用推進を担う若手技術者に、新しい技術に対する知見の獲得、技術者の保有するスキル・ノウハウの発表、意見交換等による研鑽の場を提供し、若手技術者の成長に寄与することを目指す。
- ・シニアプログラム(シニア技術者勉強会)で、シニア技術者の活躍を支援、若手技術者との交流の場を提供する
長年の経験と技術を持つシニア世代の技術者に活躍の場を提供し、併せて若手技術者との交流を通してシニア技術者の培ってきた知見・経験を若手技術者に伝承する場となることを目指す。
- ・IT 女子プログラム(通称:女子会)を軸に、「人・技術・知見との出会い」で IT 女子の活躍を支援する
より多くの IT 女子の参加を得て、先端 IT のスキル、ノウハウを習得してもらい、更に活動の企画や運営に関与してもらうことで、後続の IT 女子のリーダー役となれる IT 女子の育成を目指す。

④ 会期末(2021年8月末日)に向け、AITC 活動の集大成となる活動を推進

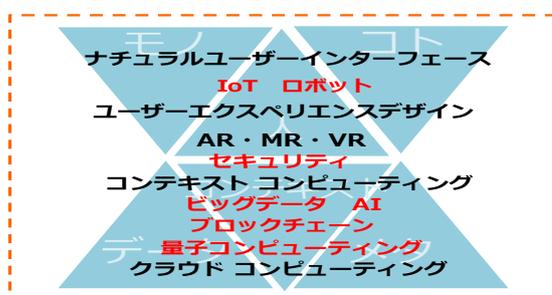
会期末まで残り3期となったのを機に、社会と産業界における先端 IT の活用推進に寄与するにふさわしい活動と成果のあり方を追求し、集大成たる成果物の作成を開始する。

- ・部会活動の文書化を強化し、成果発表会やセミナーの発表資料のみならず、活用提案や提言書、ノウハウ集等、参照性の高い資料をまとめ、一般公開を進める
- ・協働プロジェクト「空気を読む家」では、新しいシナリオ作りやデモ開発を活性化し、試用・検討報告書、あるいは実証実験報告書等をまとめるための準備を加速する
- ・毎年、成果発表会では部会と協働プロジェクトを中心に一年の活動成果を発表する。今期からはより一層「成果発表会」の名称を意識し、これにふさわしいレベル(理事会認定の成果物相当)の活動成果を発表し、会期末に向けた活動集大成のための蓄積を行う

2)活動対象分野

本会では、これからのビジネスや社会基盤を支えるであろう先端 IT を取り上げ、新しい IT 活用を拓くことを目指し活動している。部会活動を中心に、ユーザーインターフェースからデータ/情報、アプリケーション、そしてシステム基盤関連まで幅広い技術分野をカバーするとともに、注目度の高い新しい技術領域(IoT、セキュリティ、機械学習/深層学習/強化学習、量子コンピューティングなど)に取り組んでいる。会員はいずれの活動にも好きだけ参加できるため、活動への関与の仕方次第で、幅広いスキルやノウハウ、情報や知見を得る機会を得て、同時に多様な人との交流も可能になる。

第9期の活動対象分野



注: 黒字=部会で取り組む分野 朱字=AITC 全体(部会共通、勉強会やオープンな活動を含む)で取り組む分野

【新しい技術領域への取り組みについて】

第五期(2014年度)はIoT、第六期(2015年度)は機械学習にフォーカスした活動で注目を集め、第七期から第八期においては、引き続きIoTや機械学習・深層学習・強化学習に取り組むとともに、ブロックチェーンやロボット、量子コンピュータなどにも取り組み、注目された。

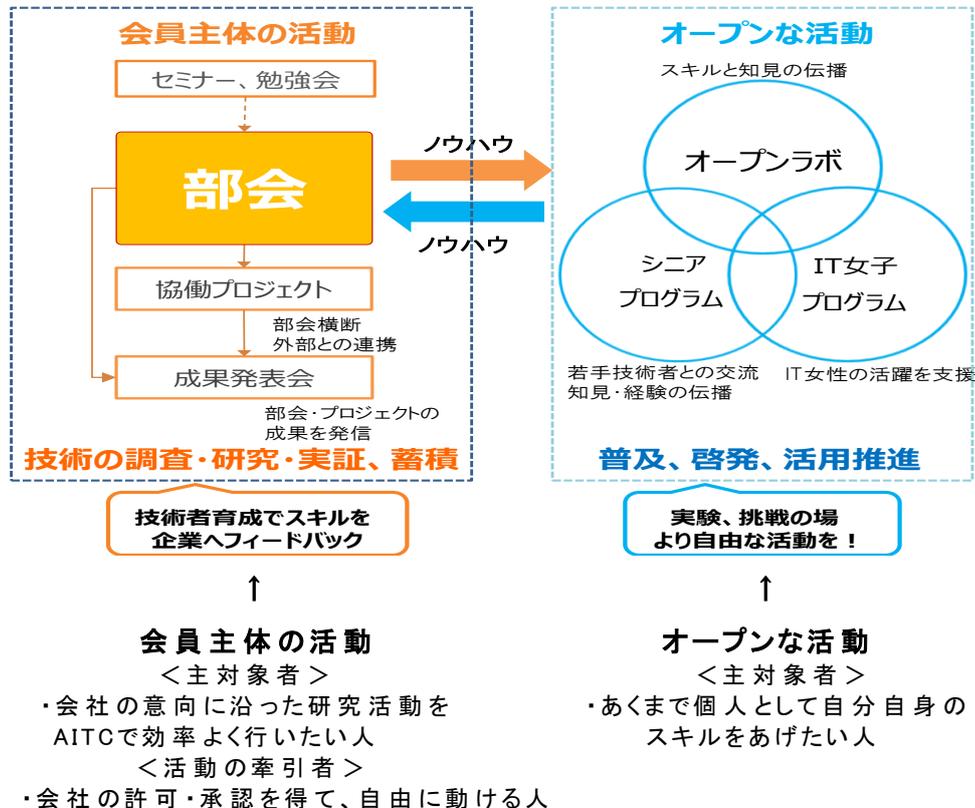
今期(第九期)は、これから新たに登場するテクノロジーにも注目し、挑戦するとともに、引き続き、IoT、機械学習・深層学習・強化学習、量子コンピュータ等の技術分野にも注力していく。

なお、上記以外の新しい技術領域に関しては、次の方法をもって会員からの要望を収集し、活動の立ち上げや旬の情報提供に努める。

- ① 各種アンケート(会員アンケート、AITC 技術セミナー、AITC オープンラボ等)
- ② AITC 会員専用「わいがや会議室」での要望入手やヒアリング
- ③ 運営委員会によるセミナー企画、開催
- ④ 新しい活動の立ち上げ: 会員が提案し所定の手続きを経て活動を立ち上げる
会員規約第40条(勉強会)
3 勉強会は、会員が提案し、理事会への報告をもって活動を開始する。
会員規約 第41条(部会)
3 部会は、会員が部会新設を提案し、理事会の議決を得て、設ける。

3)活動の種類と関係性

会員主体の活動とオープンな活動の2系列で構成し、それぞれの特徴を活かしながら活動し、適宜、相互に連携することでより密度の濃い活動になることが期待される。今期における会員主体の活動とオープンな活動それぞれの構成は以下の通りとする。



【活動の概要】

会員主体の活動:

先端 IT に明るい技術者を育成し、スキル・ノウハウを会員企業へフィードバックする活動を行う場

① セミナー(部会のシーズ)

最新情報を入手する場

内外著名人による講演、交流の場

- ・勉強会や部会のシーズとなる先端 IT
- ・旬の話題、関心の高いトピック
- ・製品・サービスの紹介

セミナーでは、部会や勉強会のシーズとなる先端 IT を取り上げ、内外著名人による講演を通じて、最新情報を入手する場を提供する。

会員は希望するセミナーに、いつでも、いくつでも参加することができる。

② 勉強会(会員限定)

特定の先端 IT を学び、試しにしてみる場

- ・部会のシーズとなる先端 IT
- ・企業が注目している新しい技術領域

勉強会は、特定の先端 IT を短期集中(3ヶ月~6ヶ月程度)で学習する場。

先端 IT の動向を見ながら、また、会員の希望に副わせながら、旬のテーマを取り上げていく。

勉強会は目標達成をもって活動を終了するか、部会の活動にするか、勉強会後の活動形態を選べる。

会員は希望する勉強会に、いつでも、いくつでも、参加することができる。

③ 部会

スキルを身につけ、ノウハウを共有する場

- ・特定の先端 IT を取り上げ調査し、試用に基づき評価し、可能性のアセスをし、知見の共有をし、報告書の作成を目指す

部会では、特定の先端 IT を対象に、参加メンバーが活動期間、目標、活動の成果、具体的な活動内容や方法を定める。

定期的な活動を通して、また、すでに知見を有するメンバーとの交流を通して、参加者は特定の先端 IT に関し知識とスキルを深め、ノウハウを共有することが可能となり、加えて、人的ネットワークを培うことができる。

会員は希望する部会に、いつでも、いくつでも、参加することができる。

④ 協働プロジェクト

部会間／外部団体との連携で研究を行う場

- ・先端 IT を使った実証実験、報告書/提言書の作成
- ・実証実験ではシナリオ作成、シナリオ設計、実装を行う

協働プロジェクトは、特定の目標(特定テーマによる実証実験、報告書/提言書等の作成)のために、一定期間、複数部会が合同で、あるいは、外部組織・団体と連携し活動する。

実証実験の目的は、部会活動で得た仮説を検証することであり、外部との連携により、ユーザー視点での取り組み、データの提供、現場の助言等を受けられる利点がある。

先端 IT の活用例を提示することで、活用推進の一翼を担い、成果物をもって協働プロジェクトで得た知見を社会に還元することを目指す。

会員は協働プロジェクトに参加することができる。

⑤ 成果発表会等

実活動に基づく情報と知見を共有する場

- ・部会や協働プロジェクトの活動内容や成果を会員内外に発表する

上記の発表会に加えて、他団体との共催あるいは他の団体が主催する場での発表を通して、知見を社会に還元し、先端 IT の活用推進を目指す。

オープンな活動:

非会員も参加可能な先端 IT の普及・啓発、活用推進の場、部会活動で得たノウハウを伝播する場より自由に、新しい技術領域に挑戦、実践する場

① AITC オープンラボ

部会とノウハウを相互に伝播する場

- ・部会に参加出来ない会員への参加機会の提供
- ・会員内外を問わず技術情報・ノウハウを発信し、先端 IT の普及・啓発に寄与
- ・技術者の裾野を広げ、活用推進への足掛かりとしての知見を社会に還元

AITC オープンラボでは、部会の活動内容・成果を基に、勉強会や他団体との交流イベントを開催する。部会に参加されていない会員も部会の活動内容を知ることができ、部会活動で培った知見、ノウハウを得ることが可能になる。部会側はオープンラボの挑戦、実践の結果のノウハウを受けることで、活動の進化・深化に役立てることができる。

イベントは多様な形態を構想しており、「セミナー」「ハンズオン」「わいがや・オフライン」「会社見学」「他団体との交流」など、取り扱うテーマに合わせた形態でのイベント開催を目指す。

② シニアプログラム(シニア技術者勉強会)

シニア技術者と若手技術者が交流する場

- ・シニア技術者に先端 IT を学ぶ場を提供する
- ・シニア技術者の培ってきた知見・経験を若手の技術者に伝承する

③ IT 女子プログラム(通称:AITC 女子会)

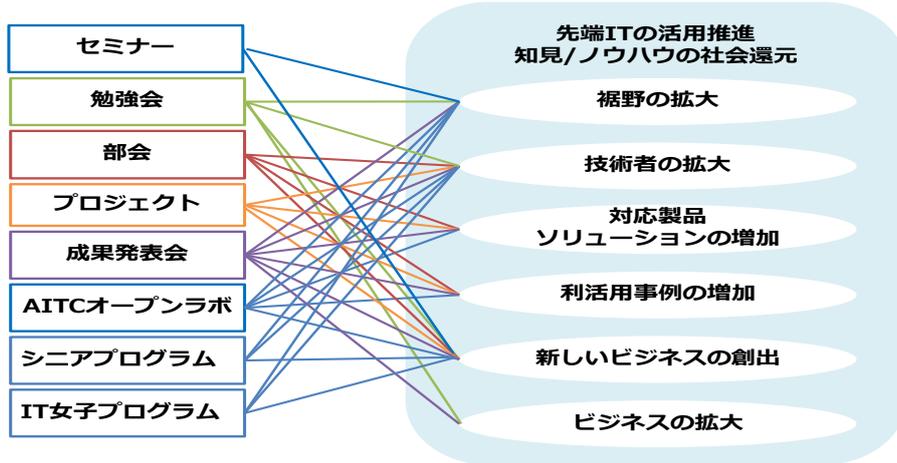
「人・技術・知見との出会い」で IT 女子の活躍を支援する場

- ・女性技術者に先端 IT を学ぶ場を提供し、活躍の場が広がることを支援する
- ・オープンな場での活動を通じて AITC を知ってもらい、AITC の活動への女性の参加と活躍を促進する

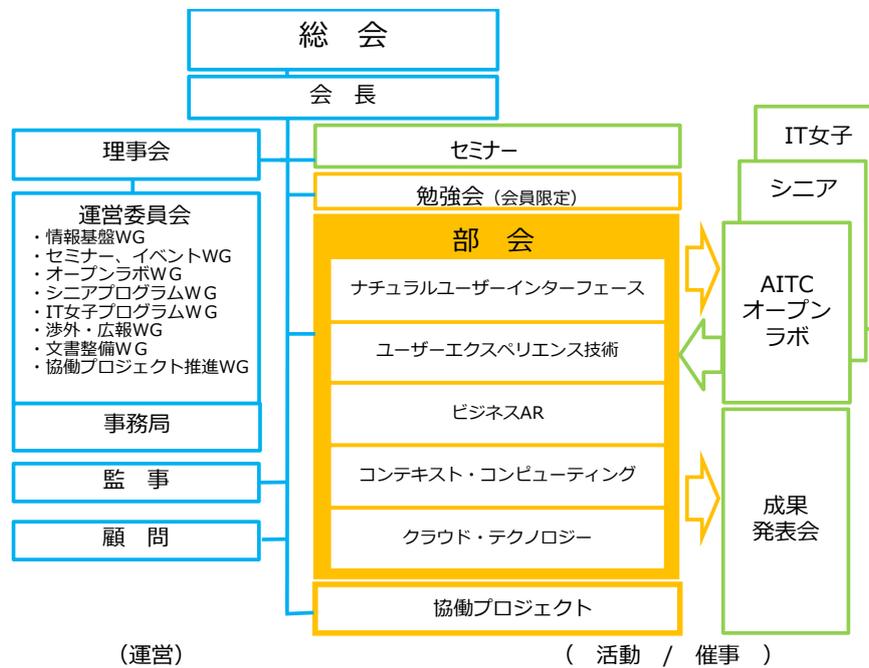
4) 活動の期待効果

先端 IT の活用推進、知見・ノウハウの社会還元を実現するための要素に対して、活動を通して下記のような直接的、間接的な効果を想定する。

活動/催事の期待効果



5) 体制図



6) 年間主要活動計画

(年次) 2018年10月1日	理事会、第九回総会(1部:成果発表会、2部:総会) 総会記念講演、懇親会
2019年10月(予定)	理事会、第十回総会、総会記念講演、懇親会
(月次)	運営委員会、部会リーダー会 部会 勉強会(会員限定) シニア技術者勉強会 AITC女子会
(随時)	合同部会 SNSコミュニティによる部会や協働プロジェクト活動 成果発表会 AITC技術セミナー AITCオープンラボ Webサイト更新作業 AITC内あるいは他団体との交流会、情報交換会 取材協力 外部主催の催事に対する出展、協力

第 4 号議案

第 9 期(2018 年度)予算計画承認の件

先端 IT 活用推進コンソーシアム

第 9 期(2018 年度)予算計画

2018 年 9 月 1 日 から 2019 年 8 月 31 日 まで (単位:円)

	第 8 期 予算	第 8 期 実績	第 9 期 予算案	備考
1. 収入の部				
前年度繰越	7,137,508	7,137,508	7,286,342	
年会費	3,973,000	3,969,000	3,815,000	法人&個人事業主 34 会員×10 万円(3450 万円) 個人会員 40 会員 × 1 万円(40 万円) 学会会員 5 会員 × 3 千円(1.5 万円) 注: 総会開催時点の会員数で算出
セミナー等参加費	350,000	89,000	130,000	総会 & 成果発表会、技術セミナー、オープンラボ等の懇親会参加費。各懇親会の原資として充当。 40 名 × 2 千円、50 名 × 1 千円を想定
雑収入	80	81	81	受取利息等
収入の部合計	11,460,588	11,195,589	11,231,423	
2. 支出の部				備考: 主用途
総会開催費	200,000	136,919	200,000	懇親会費、講師謝金、賞状作成費、配送費等
活動支援費 (部会、勉強会)	600,000	847,923	1,000,000	機器機材購入/レンタル費、レンタル・サーバー費 外部会議室費、外部団体参加費、輪読用書籍代、 講師謝礼、懇親会費、パンフレット作成費 注: ()内は予備費からの充当分 参照: 特記事項 1
協働プロジェクト支援金	300,000	82,188	100,000	機器機材購入/レンタル費、合同部会懇親会費 等 外部会議室費 参照: 特記事項 1
イベント参加費	100,000	105,384	150,000	外部イベントへの参加費等
技術セミナー、オープンラボ開催費	400,000	75,432	100,000	講師謝金、懇親会費 等 参照: 特記事項 1
シニア勉強会 & 女子会活動支援金	250,000	36,174	50,000	機器購入費、外部会議室費、講師謝金、交流会費 等 参照: 特記事項 1
事務局経費	2,592,000	2,592,000	2,592,000	事務局サポート要員費(各種の情報配信 & サイト掲載、 会員管理 & 対応、セミナー等申込受け付け & 運営補助、 財務経理、事務作業一般、対外対応等)
コンソーシアムサイト リニューアル費	0	0		参照: 特記事項 2
通信費	5,000	8,870	10,000	郵送料、宅急便費
事務消耗品費	20,000	10,957	15,000	
雑費	20,000	13,400	20,000	振り込み手数料、名刺作成費
予備費	6,973,588		6,994,423	注: (247,923): 活動支援金不足への充当分 参照: 特記事項 1, 2
支出の部合計	11,460,588	3,909,247	11,231,423	
次期繰越収支差額		7,286,342		
合計	11,460,588	11,195,589	11,231,423	

特記事項 1: 支出の部の予算額は昨年の実績を参考に計上。但し、次の項目に不足が生じた場合は理事会承認を得て予備費を充当する。
活動支援金(勉強会、部会)、協働プロジェクト支援金、技術セミナー & オープンラボ開催費、シニア勉強会 & 女子会活動支援金
2: サイトリニューアルの必要が生じた場合は、理事会承認を得て、予備費から充当する。

第 5 号議案

第 9 期(2018 年度)理事/監事選任の件

先端 IT 活用推進コンソーシアム

第9期(2018年度)先端IT活用推進コンソーシアム役員構成

【理事候補】(敬称略、社名50音順)

(交代)

株式会社日立製作所	サービス&プラットフォームビジネスユニット サービスプラットフォーム事業本部 IoT・クラウドサービス事業部 アプリケーションサービス第2本部 ソフトウェアエンジニアリング部 部長	中島 恵
富士ゼロックス株式会社	ソフトウェア開発本部 SS 領域統括マネージャ	倉繁 宏輔

(留任)

アステリア株式会社	代表取締役社長/CEO	平野 洋一郎
アドソル日進株式会社	セキュリティ・ソリューション推進部 担当部長	荒本 道隆
彩葉ソリューションズ	代表	澤崎 章二
ウルシステムズ株式会社	IT イノベーション第2本部 本部長	小松 要
株式会社 NTT データ	技術開発本部 本部長	風間 博之
一般社団法人情報処理推進機構	顧問	鶴保 征城
ドリーム IT21	代表	田原 春美
日本ユニシス株式会社	プラットフォームサービス本部 本部長	齋藤 重幸
PFU テクノコンサル株式会社	技術センター ソフト共通技術部 部長	松山 憲和
ピースミール・テクノロジー株式会社	代表取締役社長 CEO	林 浩一
富士通株式会社	プロダクト事業推進本部 人事部 技術人材企画担当 (兼)AI サービス事業本部 ビジネス戦略担当 シニアディレクター	藤田 和彦
リコーITソリューションズ株式会社	経営企画本部 技術戦略センター センター長	木原 民

【監事候補】

(留任)ピー・シー・エー株式会社	取締役相談役	水谷 学
------------------	--------	------

参考: 顧問&部会顧問(敬称略、組織名50音順)

【AITC 顧問】

(留任) 慶應義塾大学 環境情報学部 教授	萩野 達也
国立研究開発法人産業技術総合研究所情報技術研究部門・ソフトウェアアナリティクス研究グループ付 経済産業省商務情報政策局情報産業課・企画官	和泉 憲明
東京大学 先端科学技術研究センター 教授	稲見 昌彦
東京大学 大学院情報理工学系研究科 ソーシャル ICT 研究センター 教授	橋田 浩一
名古屋大学 大学院 情報学研究科 教授	山本 修一郎
一般社団法人 MaruLabo 代表理事	丸山 不二夫

【ビジネス AR 研究部会顧問】

(留任) デジタルハリウッド大学大学院 専任教授	三淵 啓自
--------------------------	-------

【運営委員候補】(敬称略、社名 50 音順)

(留任)

アステリア株式会社	代表取締役社長/CEO	平野 洋一郎
アドソル日進株式会社	セキュリティ・ソリューション推進部 担当部長	荒本 道隆
彩葉ソリューションズ	代表	澤崎 章二
ウルシステムズ株式会社	テクノロジーサービス部	近藤 繁延
株式会社 NTT データ	技術開発本部 エボリューション IT センタ 課長	高木 徹
株式会社NTTデータ経営研究所	社会システムデザインユニット シニアマネージャー	大林 勇人
ドリーム IT21 代表		田原 春美
日本ユニシス株式会社	Tech マーケ&デザイン企画部 クロス Tech 企画部	牧野 友紀
日本ユニシス株式会社	プラットフォームサービス本部	
	サービス開発部サービス開発一室 室長	高島 亮祐
PFU テクノコンサル株式会社	技術センター ソフト共通技術部 部長	松山 憲和
ピースミール・テクノロジー株式会社	先端技術研究部	高岡 大介
富士ゼロックス株式会社	ソフトウェア開発本部	
	コントローラプラットフォーム第四開発部チーフアーキテクト	道村 唯夫
富士ゼロックス株式会社	ソフトウェア開発本部	
	コントローラプラットフォーム第四開発部	門馬 隆
富士通株式会社	SPF 戦略企画室	小森 斉
リコーIT ソリューションズ株式会社	経営企画本部 技術戦略センター 人材戦略部	飯沢 篤志
リコーIT ソリューションズ株式会社	ビジネスソリューションズ事業部	
	イノベーション開発センター	
	第1イノベーション開発部 第1グループ	入江 弘憲

付属資料

第 9 期 (2018 年度) 活動のご紹介

～部会および協働プロジェクトの活動計画～

クラウド・テクノロジー活用部会

コンテキスト・コンピューティング研究部会

ビジネス AR 研究部会

ユーザーエクスペリエンス技術部会

ナチュラルユーザーインターフェース活用部会

協働プロジェクト「空気を読む家」

先端 IT 活用推進コンソーシアム

クラウド・テクノロジー活用部会

■背景/活動目的

8年目は、機械学習を中心に、クラウド関連で新たに社会に必要とされるであろう様々な技術について学習した。9年目は、「普通に使われるようになったクラウド」にフォーカスし、『クラウドをシステムに組み込む事で実現できるようになった機能』『クラウドをより活用する方法』を中心に、各要素技術の調査・活用に挑戦する。

- ・測定(センシングなど): Arduino,RaspberryPI を使ったセンシング
- ・収集(ネットワーク) : 無線 LAN, Bluetooth, 電子署名, セキュリティ
- ・蓄積(KVS, クラウドサービスの利用): RDF, SPARQL, IaaS の利用
- ・分析(統計処理、オープンデータの利用、アルゴリズム): R, 遺伝的アルゴリズム, ディープラーニング
- ・出力(ビジュアライゼーション、外部操作): R, D3.js, ロボット, ROS

これら広範囲の各要素技術に対し、部会参加者が「知っている」ではなく「使ったことがある」「人に教えることができる」と言えるレベルを目指す。また、それらを使ったプロトシステムを開発し、運用を行う。

■活動計画

- ・クラウド関連の情報収集
- ・部会内勉強会&ハンズオンの開催(2ヶ月に1回ペース)
- ・書籍の輪読(2ヶ月に1回ペース)
- ・プロトシステムの作成

■活動成果

- ・勉強会&ハンズオン資料
- ・オープンラボへの展開
- ・プロトシステムの AITC 内公開

■活動方法

- ・月例ミーティングの開催
- ・SNS 上での情報交換

■体制(敬称略)

リーダー : 荒本 道隆(アドソル日進株式会社)

サブリーダー: 上村 準也(キヤノン IT ソリューションズ株式会社)

コンテキスト・コンピューティング(CC)研究部会

■背景

物事は、人の認知の仕方によって異なった価値や意味を持つ。その価値や意味の違いは、対象とする物事と関連する物事の関係性の違い、つまり“コンテキスト”の違いに現れたりする。IT を使って人がこのようなコンテキストを自由に扱えるようになったら、人々のコミュニケーションが深まったり、人々が協同し活動する成果がもっと豊かになったりするのではないか。そんな思いでコンテキストをコンピュータで研究を行う。この研究活動において、コンテキスト・コンピューティングとは関係性をデータとして記録し、活用する情報処理である。

■活動目的

近未来の情報社会をビジョンとして描き、コンテキスト・コンピューティングにより個人と社会のインテリジェンス (Social Intelligence) が階層的に連動する情報基盤を提言する。

■活動内容

- ・コンテキスト・コンピューティングにより実現するビジョン「人と機械の協働による“情報の個人化”、“社会知の形成”」の検討
- ・2020年のITシステムにおける SocialIntelligence の姿と実現方法の構想
- ・コンテキスト・コンピューティングを実現するための基盤となるプラットフォームの設計
- ・コンテキスト・コンピューティングの社会・ビジネスにおける応用例の提案
- ・コンテキスト・コンピューティング先行研究・関連研究の調査、計算アルゴリズムの検証
- ・コンテキスト・コンピューティングの具体化のための技術要素の調査・試用

■活動計画

これまでの研究活動で構想したビジョン「人と機械の協働による社会知形成」に向けて、理論と実践、応用の三つの面からの研究を平行して進める。今期は、前期に集中的に議論した「信頼」に関して成果としてまとめていく。また、単なる自動化とは異なる「人と機械が協働する世界」を描き、そのメカニズムに関して議論する。さらに、短時間で実現できるちょっと気の利いた、ビジョンに基づくサービスについて考察をすすめる。

- ・理論) グラフ理論を中心としたアルゴリズムや手法、関連研究に関する輪読・輪講
- ・実践) 構造化コンテンツを活用するための技術・実装の調査・試用
- ・応用) 空気を読む家)におけるコンテキスト・コンピューティングの活用シナリオの検討、人と機械の協働によるちょっと気の利いたサービスの検討

■活動成果

- ・「人と機械の協働による社会知形成」実現に向けたコンテキスト・コンピューティング研究状況報告、および近未来の情報社会における情報基盤としての社会知の活用に関する提言書
- ・講演等各種外部発信資料、月例会議事録及び参考資料

■活動方法

- ・月次ミーティングでのディスカッション
- ・SNSを使ったオンラインでのディスカッション
- ・顧問、有識者との意見交換

■体制 (敬称略)

- リーダー: 道村 唯夫(富士ゼロックス株式会社)
- リーダー補佐: 牧野 友紀(日本ユニシス株式会社)
- サブリーダー: 小林 茂(個人会員)
- サブリーダー: 高岡 大介(ピースミール・テクノロジー株式会社)
- 顧問: 和泉 憲明(経済産業省商務情報政策局情報産業課・企画官)

ビジネス AR(BizAR)研究部会

■背景

この数年来、スマートデバイスの一層の普及、ウェアラブル端末・VR やセンサーネットワーク(IoT)、生活支援ロボット(AI)、3次元デジタル空間・構造物モデル(BIM、3DCAD)への期待の高まりが生じている。このような潮流を

テクノロジーの観点で俯瞰すると、人間のあらゆる感覚の拡張や IT と人間が一体となった技術(総連携=我々が考える AR)の萌芽とみなすことができる。

他方、社会やビジネスの観点では、経済のグローバル化のさらなる進展と同時に、それとは異なる圏域である“Others”(シェアリングエコノミー、ローカル経済、里山資本主義(広域自給自足)、プロボノ等)が勃興しつつあり、人々の生き方や働き方が「一つの組織に縛られる」ものから変化・多様化していく中、世の中に広く影響を与える汎用テクノロジー(GPT)の開発や活用のあり方も新しい局面を迎えようとしている。

■活動目的

最先端の AR 技術の把握と習得、及び今後の社会やビジネスの変化を踏まえた AR の活用(ビジネス AR)について、研究することを活動目的とする。さらに活動成果を発信していく。

■活動内容

- 1)ビジネス AR を創出、普及・展開するための考察・議論・グループ活動
- 2)AR 技術への理解を深めるためのプロトタイプ開発・試行実験
- 3)上記活動を成果物としてまとめ、外部発信の活性化

■活動計画

- 1)AR の理解を深めるためのプロトタイプ開発・試行実験
 - ・空間 OS の開発継続(含む協働プロジェクトへの協力)
 - ・VR を用いた遠隔 MTG の実験及び実践
- 2)ビジネス AR 関連の議論・考察
 - ・「AJ(Automated Judgement)と AH(Augmented Human)」の研究継続
 - ・「なぜ、3D デジタル空間がこれからの IT のインフラになるのか」の研究継続
 - ・2018-2019 ここ 1 年の AR 関連情報のアップデート
- 3)成果発表会、外部イベントにおける講演、パブリックコメントやコンテスト等への投稿など

■活動成果

- 1)技術トライアル成果物の公開

■体制(敬称略)

- リーダー:大林勇人(株式会社 NTT データ経営研究所)
サブリーダー:中川雅三(日本総合システム株式会社)
サブリーダー:西野貴志(YAMAGATA 株式会社)
顧問:三淵啓自(デジタルハリウッド大学大学院 専任教授)

ユーザーエクスペリエンス(UX)技術部会

■背景

IT システムが、その機能面での優劣を競うだけの時代から利用者にとって どのような価値や経験を提供できるかが重要視される時代へと変わってきた。また、ユーザー体験(ユーザーエクスペリエンス、UX)を高めることは、コスト削減あるいは売上拡大というビジネス面からも重要性が増している。しかし、優れた UX を提供する IT の実現には、先進的な UI 技術やグラフィックデザインだけではなく、使い易さを追求するための人間工学や心理学、社会的あるいは文化的な状況への洞察など幅広い知識と経験が必要であり、一朝一夕に実現できるもので

はない。このような状況の中、UX デザインプロセスとして様々な手法やツールが提供され体系化が進められてきている。加えて製品単体の UX だけではなく、広い意味でのサービスを含めた、サービスデザインについても研究が進んでいる。

■活動目的

UX デザイン/サービスデザインプロセスの実践を通して、利用者に、より良い体験を提供する IT システムとは何かを探究する。

UX デザイン/サービスデザインプロセスの実践・評価によって得られた知見を広く提供していくことで、IT の UX 向上に貢献していく。

■活動内容

AITC 発の UX アーキテクトプロセスである「マンガ駆動開発」を啓発と普及を目指し、集大成である書籍「マンガ駆動開発ではじめる UX デザイン(仮)」の執筆を進める。

また、協働プロジェクト『空気を読む家』を「マンガ駆動開発」実践の場と捉え、マンガ駆動開発の更なる洗練を行う。

■活動計画

- ・「マンガ駆動開発ではじめる UX デザイン(仮)」の執筆
- ・協働プロジェクト『空気を読む家』を対象にしたマンガ駆動開発の実践と洗練

■活動成果

- ・書籍「マンガ駆動開発ではじめる UX デザイン(仮)」
- ・協働プロジェクト『空気を読む家』の UX デザイン

■活動方法

- ・書籍「マンガ駆動開発ではじめる UX デザイン(仮)」の執筆を活動の中心とするため週 1 回 Web 会議を開催
- ・F2F のミーティングは 3 ヶ月に 1 回を計画
- ・適宜、SNS 上での情報交換

■体制（敬称略）

リーダー：松山 憲和（PFU テクノコンサル株式会社）

サブリーダー：神野 昌和（富士通株式会社）

ナチュラルユーザーインターフェース(NUI)活用部会

■背景／活動目的

前年度に引き続き、最新技術やデバイスの紹介などを行うとともに、前年度の成果を踏まえて、NUI の特性をより引き出しより身近に使えるものとなるようなプロトタイプ開発を目指し、調査・研究を行っていく。その活動を通じ、直感的で誰もが使いやすいインターフェースとは何かを探究し、ビジネスやサービスにおける様々なアプリケーションの利便性の向上に貢献していく。

■活動内容

協働プロジェクト「空気を読む家」のなかで、日常的な人間の振る舞いが自然なインターフェースとしてシステムと繋がるようなフレームワークを検討、開発する。

■活動計画

随時

- ・NUI 技術及び事例の調査
- ・勉強会、ハンズオンの開催
- ・NUI フレームワークの開発
- ・デバイス、ガジェット紹介イベントの開催

■活動成果

- ・NUI 利用技術の習得
- ・NUI フレームワークの公開

■活動方法

- ・Face2Face ミーティングの開催
- ・SNS 上での情報交換
- ・セミナー/ハンズオン形式勉強会の開催

■体制(敬称略)

リーダー： 岡村和英(テクリエ)

サブリーダー： 未定(必要に応じて選任)

協働プロジェクト「空気を読む家」

■目的

協働プロジェクトは、技術的なテーマを持って活動を展開している部会と連携し、以下を目的として活動を行っている。

- 1) 一つのテーマのもと、本会が対象とする先端 IT 各分野の活動が集結、連携し、プロトタイプを構築することで、先端 IT の有用性を検証、評価する。
- 2) 会員に先端 IT に関するスキルやノウハウ習得の場を提供する。
- 3) 構築後のプロトタイプを一般公開し、試用してもらうことで、先端 IT の有用性を世に広く訴求し、利活用推進の一助とする。

■テーマ

超少子高齢化社会における安心・安全・快適な生活の実現という社会課題解決にチャレンジする「空気を読む家」をテーマとして協働プロジェクトの活動を行う。

「空気を読む家」は以下をコンセプトとする。

- ・「空気を読む家」は、「居心地の良さ」を考えて、実現する家です。
- ・「空気を読む家」は、「生活に必要なこと」を考えて、実現する家です。
- ・「空気を読む家」は、人々の行動を見て、世の中の知恵を取り入れ、成長します。

■活動内容

各部会の活動成果を結集し、「空気を読む家」を実現する。

- ・各部会の活動成果
 - ユーザーエクスペリエンス技術部会が提唱する「マンガ駆動開発」によるユーザー体験のデザイン
 - ビジネス AR 研究部会で検討を進めている「空間 OS」の取り込み

- クラウド・テクノロジー活用部会が取り組んでいる、IoT や深層学習などの先端 IT をもっと身近に体感
 - ナチュラルユーザーインターフェース活用部会が研究している、真に自然なユーザーインターフェースの追求
 - コンテキスト・コンピューティング研究部会で研究を進めている集合知、社会知の活用
- 協働プロジェクト全体の方向性、部会ごとの役割分担や部会間の連携については合同部会と部会リーダー会において決定する。

各部会は、決定された方向性、役割に従って「空気を読む家」の具体化を進める。

「空気を読む家」1 軒を部屋毎に建てていくイメージ(実際の「家」ではなくプロトタイプ)

- 家の各部屋(玄関、リビング、キッチン、寝室、浴室・・・)について、「マンガ駆動開発」により、課題抽出からユーザー体験をデザイン。
- ユーザー体験を実現する実証実験システムを IoT、深層学習、自然なユーザーインターフェースを活用して構築
- 「空気を読む家」の大黒柱ともいえる「空間 OS」の拡充

■活動計画

2016 年度に『空気を読む』というコンセプトを明確にし、2017 年度はそのコンセプトを「忘れ物を見つけてくれるリビング」、「外出時に忘れ物を教えてくれるリビング」というを実証実験によって具現化した。

2018 年度は、『空気を読む家のキッチン』をテーマにした実証実験を通してコンセプトの有効性を検証する。

具体的には、キッチンにおける以下の 3 つの課題を解決する先端 IT の研究を行う。

課題 A) 食材賞味期限切れ問題

課題 B) 食器/調理器具片づけ問題

課題 C) 買い物重複/買い忘れ問題

技術領域として

- 深層学習や IoT による物体認識と物体トレースの実現
- 利用者の行動履歴や行動予定に加え外部環境情報を加味
- これまでの実証実験をとおして得られた手法/アルゴリズムの適用

を行う。

実証実験システムは 2019 年 2 月の完成を目指し、結果をイベントや学会などで広く外部に問う。

■活動方法

以下の取り組みで活動を行う

- ・部会リーダー会を中心に意見交換、進捗把握、調整
- ・各部会における担当部分に関する調査、検討、実装の実行
- ・部会間の意見交換会
- ・発表
- ・構築後のプロトタイプ公開等
- ・プレスリリース

■活動成果

協働プロジェクトの実施によって見込まれる活動成果

- ・実証実験システム:システム、各種仕様書、ソースコード、モジュールなど
- ・活動報告書

■体制（敬称略）

リーダー：松山 憲和(PFU テクノコンサル株式会社)

推進役：部会リーダー、サブリーダー、運営委員有志

メンバー：会員有志（状況に応じ、他団体との連携により非会員が参加）
